

令和元年度生活支援体制整備事業 第1回 第1層協議体 会議録

議題	<p>(1) 報告「愛称について」</p> <p>(2) 自己紹介</p> <p>(3) アンケート調査結果の報告について</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>(5) 茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業の取組について</p>
日時	令和元年11月14日(木) 10時00分から11時30分まで
場所	市役所本庁舎4階 会議室3
出席者氏名	<p>松井 新吾、平本 哲也、菅野 京子、矢島 啓志、杉田 司、 高田 麗、菊池 利枝、鈴鹿 隆司、習田 祐子、阿部 洋子、 中戸川 正、篠原 徳守、柏崎 周一、小山 紳一郎、 吉川 美香、臼井 高之、吉川 宗孝、藤尾 直史</p> <p>(欠席委員)</p> <p>林 正明</p> <p>(事務局等)</p> <p>熊澤 克彦、太田 雅世、原 鮎子、遠藤 駿、東方 明美、 加藤 絵里、岡田 美穂</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市生活支援体制整備事業に係る令和元年度 第1回 第1層協議体 次第 ・第1層協議体構成員等名簿 ・座席表. ・【資料1】茅ヶ崎市生活支援体制整備事業－アンケート調査結果(確報)について－ ・【資料2】「外出」に関するアンケート調査結果【確報版】【市域版】 ・【資料3】「外出」に関するアンケート調査結果【確報版】 【地区版】：13地区分 ・【資料4】ミニデイサロン一覧
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	－

傍聴者数 (公開した場合のみ)	0人
--------------------	----

1 開会

○ (茅ヶ崎市福祉部 熊澤 克彦 部長)

本日の会議にご出席いただきありがとうございます。高齢化がすすみ高齢者の方が増えていく中で、支援の必要な方も増えていきます。この方々を公的サービスだけで支えていくのは難しく地域におけるささえ合いでカバーしていく必要があります。普段からの皆様の活動で得られた知見の中で解決に向けたアドバイス、ご意見等賜れば幸いです。本日の議題は外出に関するアンケート調査結果についてです。既に速報版については前回の会議でご報告しましたが、地域の支え合いを進めるうえでのより詳細な情報を把握していくという観点からこのたび確報版という形で地区ごとの集計分析結果を整理したものです。今後この資料については地域にフィードバックさせていただきます。その際、効果的な活用にあたり皆様からご意見等賜れば幸いです。それでは、本日、よろしくお願いたします。

2 議題

(1) 報告「愛称について」

○ (茅ヶ崎市高齢福祉介護課 吉川 宗孝)

茅ヶ崎市生活支援体制整備事業の「愛称」について、前回平成30年度第2回第1層協議体の会議において茅ヶ崎市の独自の事業名としてわかりやすく、親しみやすく、呼びやすい愛称をつけたいと名称の案を示した。その際に頂いたご意見等を踏まえ今回茅ヶ崎市生活支援体制整備事業の愛称が「ささえ愛♡ちがさき」と決まった。この事業については、日常のちょっとした手助けを必要とする方々を地域で支え合い、普段は支えられる側であっても別の場面ではできる限り支える側に立つという相互の支え合いの仕組みづくりを行う事業であることから、通常の「支え合い」ではなく「愛」という漢字を使い、視覚的にも親しみやすく、皆様に周知がしやすいということでハートマークも間に入れたことが特徴である。また、えぼし麻呂のマークだが、市の職員でえぼし麻呂のマークを作成している者が今回生活支援体制支援事業のために特別に作成した。今後このマークを積極的に活用したい。

(2) 自己紹介

○各委員 所属と氏名

(3) アンケート調査結果の報告について

○ (茅ヶ崎市高齢福祉介護課 吉川 宗孝)

【資料1】茅ヶ崎市生活支援体制整備事業－アンケート調査結果（確報）について－

1. これまでの経緯

①外出に関するアンケート調査実施

【目的】 要支援認定を受けている方の日常生活に必要な「外出」や「移動」に関する困りごとを把握するための基礎資料とする

【期間】 平成31年1月24日～2月20日

【対象】 1,300人（各地区100名、平成30年12月時点で要支援認定を受けている方）

【回答数】 815人（回答率：約63%）

他のアンケートの結果でもおおむね60%程度の回答率となっていることから想定した回答率であった。

②アンケート調査結果（速報）

- ・アンケート調査の単純集計結果を速報として配布（平成31年3月28日 茅ヶ崎市生活支援体制整備事業報告会）
- ・速報であるため、内容は主に市域全体の集計結果を記載

2. 確報の概要

確報作成の目的は「アンケート調査結果を地区で活用しやすい形にしよう」にまとめた。例えば、

- ・地区ならではの困りごとの傾向を掴む一つの視点
- ・地区の高齢者が必要としている支援策を考えるヒント
- ・各地区での取り組みを推進するための基礎

として活用していただくことを想定している。

通常市で行っている高齢者向けのアンケート調査では様々な観点から広く浅くきくものが多いが、今回のアンケート調査では、テーマを絞って、地区ごとの数字が集計できるようにしている。それによって地区ごとの課題の把握、支援策を考えるヒントになるであろう。

確報の特徴としては、地区で活用いただくために市域全体に加え、地区別の集計結果と傾向を掲載し、【市域版】と【地区版】を作成した。

市域版の特徴は、

- ・地区版の基となる情報
- ・市域の集計結果については細部まで掲載

- ・ 地区別についても基本的な集計は網羅
- ・ 細部まで確認しやすい報告書形式

地区版の特徴は、

- ・ 地区別の詳細な集計結果を掲載
- ・ 地区ごとの傾向を掲載
- ・ 地区でのプレゼンに適した形式

3. 確報（市域版）

全体の構成としては以下の4つの項目からできている。

- ・ 外出に関するアンケート調査結果（確報版）の概要
- ・ 市域全体に関する集計結果
- ・ アンケート調査票
- ・ 参考資料

スライド12～15の“集計結果の見方①～④”でそれぞれの結果の見方の説明を行った。

○（茅ヶ崎市社会福祉協議会 藤尾 直史）

4. 確報（地区版）

地区版の構成は、以下の4つの項目からできている。

- ・ 外出に関するアンケート調査の概要
- ・ 地区版の活用について
- ・ アンケート結果から見る地区の状況
- ・ 参考資料

全体の傾向だけでは見えにくい、地区ごとのならではの困りごとを掴む一つの視点として、また、どのような支援が求められるのかの話し合いなど、各地区での取り組みを考えるためのヒントとして活用いただくと良いと考える。

それぞれの地区では地区の方々と一緒に見ながら、外出にかかわる現状と課題を知り、必要なこと、地区の人たちで工夫できそうなことなどを考えていく。

- ・ 第1層協議体の皆さんには、それぞれの地区で一緒に考え、専門機関・施設・事業所等の機能を活かして連携、協力できることを教えていただきたい。

（4）意見交換

茅ヶ崎市生活支援体制整備事業に係る令和元年度 第1回 第1層協議体においてアンケート調査結果に関する意見交換を行った。主に次のような視点から意見をいただいた

た。

- ・ 構成員の皆様の所属する団体として、アンケート確報をどのように活用できるか
- ・ 地区の活動にどのように活かしたら良いか
- ・ アンケートの内容そのものに関する意見

● いただいた意見

① 一般社団法人 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 松井 新吾
会として何ができるかについて、理事会に持ち帰りたい。

② 一般社団法人 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 平本 哲也
ケアマネジャーの立場としては、民間事業者でできる範囲は限られている。地域にというよりは一利用者に対して考えている。地区別に作成したのは良いと思うので地区毎でケアマネジャーに何ができるかについて、理事会に持ち帰りたい。

③ 茅ヶ崎市介護予防ボランティア 菅野 京子

小和田地区は金融機関もなく不便なところだったが、テラスモールできて便利になった。公共機関が地区の中心になく高齢者が集まりにくい。今まで来られていた人たちも自力で行けなくなりタクシーに乗り合わせていくようになっている。テラスモールができて便利になった反面、交通量が増えたためバスも時間通りには来なくなった。朝晩は通勤通学のためバス便は多いが、日中は少なく地区で何かするための足がないのが問題である。地区の中心に新しく施設ができるので来年度からは駅近くのYU-ZUルーム、複合施設、コミセンの三か所になり皆さんが出ていくところが増える。ちょっと交通量が増えてきたのが難点かと思う。アンケート調査結果については持ち帰って小和田地区で話し合いたい。

ボランティアをしている中で高齢福祉介護課は頑張っていることに感謝している。歌体操、フレイル、茅ヶ崎体操などをいろいろな地区でやっているがそこまで出かけていくのも難しい人もいるのでそのあたりもボランティアのほうで考えていきたい。

④ 社会福祉法人 茅ヶ崎市社会福祉協議会 矢島 啓志

13地区で支援の活動をしている。今回あがってきた課題については地区社協や地区ボラセンだけでの解決は難しい。いろいろな事業者、企業との連携が必要。今後どうしていくのか、また市としてもどう考えているのか。例えば、今は総合事業

ではサービスA, Cだけで、外出に関係するものではサービスDであるが、市としても総合事業を含めた今後の方向性が出てこないと解決に向かっていかない。高齢化がすすみ独居の方が増え、支える側も支えられる側も一緒になって考える必要がある。

→ 高齢福祉介護課 臼井担当課長

令和3年度からの新しい計画を作っていく時期で、この1年半の間にサービスB・Dについて市としてどうしていくのか検討していく。

⑤公益社団法人 茅ヶ崎市シルバー人材センター 杉田 司

会員110人、平均年齢74歳、中心は64～74歳の元気な高齢者。センターの事業の中で、様々な団体で活動されている方がいる。センターとしても地域で何ができるかを議論している。

⑥茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会 高田 麗

地域包括支援センターの利用者である要支援1・2の方が対象である。茅ヶ崎地区を見ると茅ヶ崎駅周辺の比較的便利なエリアでも通院・薬の受取りで外出に困っている人がこんなにいるのかというのが率直な感想である。これはアンケートを取ったことで分かったことだ。こんなにこの地区に困っている人が多いのだけでも、内実はどのように困っているのか。また、質問が「通院・薬の受取り」となっているので通院なのか薬の受取りなのかなどを、実際にご本人から直接聞くための基礎資料として有効活用できると思う。

近年社会福祉法の改正等で社会福祉法人が公益的な事業を行わなければならないと定められている。

麗寿会でも鎌倉市の特別養護老人ホームの車を大船から今泉台までのルートを週に1回バスをだして外出のお手伝いをしている。鎌倉市と協定を結んだところだ。地域の社会福祉法人のこういった事例での活用を検討していただきたい。

⑦茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会 菊池 利枝

行先はあるのだけれど足がないというのは多くのケアマネジャー、包括の職員から聞く。

鶴嶺西地区の地区ボラセンで送迎を行っている。(昨年実績で131件、主に通院やお買いもの。) p.95 「外出について困ったときどこに相談しますか。」の間で鶴嶺西のボランティアが0となっているが、実際にはケアマネジャーや包括支

援センターなどに相談が入って、ボラセンにお願いしているケースがある。ボラセンでも送迎の安全面での検討の必要がある。

⑧茅ヶ崎市地区社会福祉協議会連絡協議会 鈴鹿 隆司

資料をざっと見たところでは社協としてどう読み込んでいいかわからないので、今日出席し、方向付けを聞いたうえでそれぞれの地域の社協がどう動いていったらいいか検討しようと考えていた。外出となると主にボラセンの役割となる。今日の説明は表面的であった。社協として地域のお買い物をどのような方法で行っていったらよいかというのをテーマとして今年度の研修会、見学会をしている。さらに資料を読み込んで今後の活動を検討していく。

アンケート結果から、地区社協、ボラセンの活動が思ったより知られていないことが分かった。「それぞれの地域でこのようなことができます」という宣伝（PR）をする必要があると感じた。

われわれが担う場面がもっとあると考える。このギャップを埋めていくのが今後の課題だ。

⑨茅ヶ崎市地区ボランティアセンター連絡会 習田 祐子

地区別に分かれているのが良い。

地区社協、地区ボラセンで課題点を考えながらやっていきたい。要支援の方が公的サービスではできない外出のところをお手伝いしている。地域包括支援センターと密接な連携を取りながら活動しているのが現状である。

人生100年時代、今日出かける用事があるのが元気のもと。この3年間地区懇談会で「ちょっとしたおせっかいで地域に還元」というのを進めてきた。将来の自分のためにもといくつかできつつある。住民の皆さんに生きがいを持ってもらうように、これからも地区社協、サポート浜須賀としてもやっていくと同時に、コーディネーター配置事業があるが、行政、市社協、福祉相談室、地区コーディネーターの連携がもっと必要である。行政でやること、連携して考えること、地域で行動することをもっと密に考えなければならない。

⑩茅ヶ崎市福祉相談室連絡会議 阿部 洋子

昨年3月に事例報告したが湘北地区では事業所とつながった。もう一つ、ハピネス茅ヶ崎とおとな食堂の取組をしている。これらにみなさん注目しただけならばさらに発展していくのではないか。今後は来られる方で「私も出来るかな」と思った方に声をかけるなどの取り組みをしたい。

⑪茅ヶ崎ボランティア連絡会 中戸川 正

14団体550名にどう浸透させていくかが課題。

松浪地区では緊急の災害時どうするか、またサロンが少ないので考えていきたい。

⑫茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会 篠原 徳守

民生委員320人程。一人ぐらしの安否確認、困りごとの相談、包括やボラセンとの連携などを行っている。実際困っているのは、「草取り」が多く、薬を取りに行つてほしいというのはあまりない。個人情報関係でお金の取り扱いは出来ない。介護になるとボラセンなのか、ヘルパーなのかは本人が決める。高齢者にとっては人が変わらず安定しているヘルパーを希望する。

一人暮らしの人は避難行動要支援者名簿に登録してもらうことによって、地域で見ることができる。地区社協、まちぢから協議会と協力していきたい。茅ヶ崎南地区もつながりが希薄化している。まちぢからがしっかりしないといけない。地域住民を巻き込んだ展開をどうやるか、一緒に考えていきたい。地区により環境は違うが、民生委員はよく活動している。これからももれなくつなぎをきちんとやってきたい。

市域と各地区の両方を合わせたアンケート確報の説明・プレゼンを各地区で行ってもらいたい。

→ 吉川課長補佐

第2層地域ささえあい推進員（社協地区担当職員）と一緒に地区の会合、勉強会などで説明をしたいと思います。

下半期について各団体の会議等あれば地区の担当職員や市の職員が出向きたい。

⑬茅ヶ崎市老人クラブ連合会 柏崎 周一

元気な人がクラブに入っている。自分たちのケアを第1にして、時間をできるだけ作って地域貢献をしようと考えている。

確報の内容は参考にはなるが、もっと「どこで」「誰を」「どのように」支援するかなど深堀が必要だと思う。20余り友愛チームがあるが自分の身近なところで相談、サロン、見回りなどをしていて、さらに数も増えている。この資料を深堀すれば積極的にアプローチできる。

困っているという事実があるとしても支援はあればあるほどいいのではなく、どこまで支援すべきかの線引きを考える必要がある。線引きとアプローチは難しいが、

支援をしすぎて、自力でできることまで奪わないように注意しなければいけない

⑭特定非営利活動法人NPOサポートちがさき 小山 紳一郎

この基礎データは素晴らしい。テーマ設定は外出支援ではあるが、このデータだけでなく居場所づくりやミニデイ・サロンを合わせて多面的に考えるほうが解決策を導きやすい。

【情報提供】サポセンの事業として「地域の居場所づくり交流会」（事例発表、コメント&講義、交流会）を行っている。

⑮茅ヶ崎市福祉政策課 吉川 美香

地域福祉改革を推進する立場として皆様から心強いご意見等を頂いて大変参考になった。65歳以上の高齢者が増えていること、また、高齢者のみの世帯、独居世帯が多くなってきていることなど課題が多いことは認識している。さらに、このアンケートの結果を見て移動についての課題がわかった。地域の移動に困った方をどう支援していくのか、それぞれの分野の方か意見を頂いたが、行政としては議論できる機会をつくり、情報を周知するのが役割である。市内において地域福祉プランや高齢の計画を策定しているところであり福祉の分野だけでなく、都市や交通の分野などに現場の声をつたえ各施策を策定する必要があるため、意見交換をしている既存サービスの拡充も大事なので、例えば交通事業者、事業者、社会福祉法人にもこの生の声を伝え、0ベースも大切だが今あるサービスであまり使われていないなど課題があると思うのでさらに拡充してもらうなど市としての対応が必要と考える。

持ち帰っていただき議論が深まっていった時にさらに新しいサービスが出来てきたらうれしい。他人ごとではなく、皆さんと顔の見える関係を作りできることから始めていくことが大事と感じた。

⑯茅ヶ崎市高齢福祉介護課 臼井 高之

高齢化率は26%を超えており、昨年度後半からは後期高齢者人口が前期高齢者人口を上回るなど、要介護・要支援認定となるリスクの高い方の割合が増えてきている。令和3年度を始期とする第8期介護保険事業計画の策定に向け、今日いただいた意見を受け止め、課内でしっかりと議論していきたい。また、資料の配布が遅れてしまったため、資料本体についてのご意見をいただくのは難しかったのではないかと大変申し訳なく思っている。市社協、高齢福祉介護課とも、この資料を地域の皆様と一緒に考えていくきっかけづくりに活用したいと考えている。

(5) 茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業の取組について

○ (茅ヶ崎市社会福祉協議会 藤尾 直史)

【資料4】市内のミニデイサロンの一覧を社協HPで公開した。詳細については11月15日号の広報紙社協ちがさきにも掲載している。会場がわかりにくいので、社会福祉協議会に問い合わせしていただければ地図情報をもとにすぐに詳しく回答で聞けるので、この情報も移動と居場所の2つの両輪ということで活用してほしい。

○ (茅ヶ崎市高齢福祉介護課 吉川 宗孝)

下半期の取り組みについて

- ・アンケート調査とその結果を踏まえた地域での取り組みをすすめる。
- ・事業の周知活動として、市内のミニデイサロン情報を含めた生活支援体制整備事業の情報を社協HPで公開した。
- ・広報紙への挟み込みによる、生活支援体制整備事業の内容や地域でのサービスの紹介を検討する。(時期は未定)
- ・サロン情報や地域の団体、個人などでさまざまなサービスを提供している情報を集約しデータベース化し、システム導入を検討している。導入の費用、ランニングコストを考え、費用対効果を見ながら今年度中に、さまざまなベンダー等について調査をしている。今後この第1層協議体でのデモンストレーションも考えている。
- ・第二回の第一層協議体は2月中旬開催予定
テーマとしては、年度末に今回のアンケートの結果の報告と、市内での第2層の移動支援事例の紹介をしたいと考えている。

3 閉会

○ (茅ヶ崎市高齢福祉介護課 臼井 高之)

本日は貴重なご意見ありがとうございました。また、お忙しいところありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。